

大学の世界展開力強化事業 構想概要 立命館大学

【構想の名称】(タイプA-1)

東アジア次世代人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス

【構想の概要】

平成15年以降築いてきた**広東外語外貿大学(広州)**、**東西大学校(釜山)**とのネットワークを基に、日中韓を2年間巡回する**移動型キャンパス**を核とし、ショートステイ、インターンシップ、遠隔講義システムを利用した4年間(+修士複数学位)のカリキュラムを共同で運営。各国で選抜されるパイロット学生を中心に、人材育成目的に応じた各国の言語・文化等に関わる科目を相互に提供し、単位互換をおこない、**東アジア次世代リーダーを養成**する。さらに本事業により新たなアジアにおける多国間連携型高等教育モデルとネットワーク(人材バンク)を構築する。

■ プログラムの目的・養成する人材像



日中韓の言語に通じ、その文化・文学・歴史等に深い理解力を有するとともに、そこに横たわる諸問題を人文学的知見から洞察・分析して具体的な解決を図り、日中韓を舞台とする企業・公共機関・教育研究機関・NPO等で実践的に活躍できる**東アジア次世代リーダー**を養成する。
日中韓のネットワーク形成の先頭にたつ文化交流・教育研究分野での国際的リーダーの育成を目指す。



■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

○ 三大学基準の設定

三大学教職員会議を開催して、相互に提供する科目のシラバスを準備し、出席管理、成績基準や単位互換基準、学位授与プロセスを定める。特に学位授与にあたっては、「卒業論文」「口頭試問」「卒業試験」などの要件化をはかる。

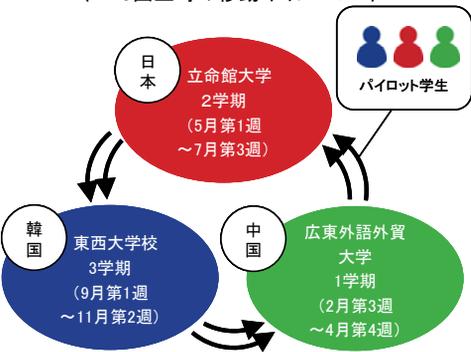
○ わかりやすい学びの道筋の提示

履修方法や履修モデルを解説した「日中韓教学の手引き(学びの道筋)」を作成し、履修相談も充実する。

○ 学びの質を向上する仕組みの導入

受講生と双方向のやりとりを実現するコミュニケーションペーパーや授業アンケートを導入すると共に、試験結果の講評と成績確認制度、「学びの実態調査(アンケート)」、三大学相互授業参観(FD)を実施する。

〈2~3回生時の移動キャンパス〉



■ 教育内容の可視化・成果の普及

教育内容の可視化

カリキュラム・シラバスの公開
授業アンケート・試験講評の実施

成果の普及

三カ国語で発信されるHP: 事業報告や、遠隔講義、ショートステイ・公開シンポジウムなどイベントの成果を発信。
リーダーズフォーラム: 修了者・履修者を中心に企業・自治体など広く一般を対象にした研究発表を開催。
人材バンク: 日中韓の人文学的見知や言語に傑出した能力を持つ人材と社会をつなぐ。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 相談体制・就職支援の充実

移動キャンパス中にも各受入校で相談窓口を用意すると共に、立命館の学生は広州、韓国の事務所も利用できる。就職についても指導・相談やインターンシップを充実させる。

○ 日中韓共同研究室の開室

パイロット学生だけでなく、日中韓に関心を寄せる学生も集まり、三カ国の学生がランゲージエクステンションにとどまらない相互に学ぶコミュニティーを形成する。国境を越えたTV会議システムの自主利用や、各国語の各種文献・書籍の閲覧、ディスカッションの開催などができる場を提供することで留学へのハードルを下げ、留学中にも自国とつながることで不安を低減する。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

1回生の夏期休暇に、中国・韓国の学生と共にお互いの大学を訪問し、2~3回生時には移動キャンパスとして毎年各大学で3か月間ずつ学ぶ。毎年春には中国または韓国でショートステイを実施する。

○ 外国人留学生の受入れ

毎夏、中国・韓国から受け入れる。また移動キャンパスの受入れも実施する。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	20	50	30	30	30
学生の受入	0	80	65	65	55

大学の世界展開力強化事業 取組実績 立命館大学

【構想の名称】(タイプAー I CAMPUS Asia Pilot Program)

東アジア次世代人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス

【プログラムの目的・養成する人材像】

日中韓の言語に長け、その文化・文学・歴史等に深い理解力を有し、そこに横たわる諸問題を人文学的知見から洞察・分析して具体的な解決を図り、日中韓を舞台とする企業、公共機関等で活躍できる国際的リーダーの育成を目指します。

【構想の概要】

平成15年以降築いてきた広東外語外貿大学(中国・広州、以下 広東外大)、東西大学校(韓国・釜山、以下 東西大)とのネットワークを基に、各国でパイロット学生を選抜し、移動型キャンパスを核とした4年間のカリキュラムを共同で運営します。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 三大学合同教職員会議

H23年度12月に東西大で、2月で広東外大で三大学合同の会議を実施したほか、12月にはTV会議も行い、本プログラムのカリキュラムおよび実施体制を確認しました。

○ 運営委員会

本学の教職員で運営委員会を構成し、月例で会議を開いて、三大学合同教職員会議・TV会議と相互に連携して本プログラムの運営に関わる課題を協議しました。

○ 相談窓口の設置

中韓それぞれの言語に長けた任期制教員による相談窓口を各週1日以上、設置することで、特に移動キャンパス中のパイロット学生のサポート体制を整えました。



〈三大学合同教職員会議の様子〉

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況



写真

〈連携講座・春季ショートステイ中の講義風景〉

○ 日中韓連携講座・ショートステイの実施

H15年度から継続して開講している日中韓連携講座にて、H23年度の夏季は本学で、春季は広東外大でショートステイを実施し、三大学の学生20名ずつ、計60名が交流しました。(※夏季ショートステイは本事業の対象外)

○ オリエンテーション・ショートステイ実施に向けた準備状況

H24年度8月のオリエンテーション・ショートステイに向け、シラバスの確認を行ったほか、中韓の語学カフェを設け、学生に対する語学のフォローを行っています。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

日中韓連携講座・春季ショートステイにて20名を1週間、広東外大へ派遣しました。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本への受入		C40,K35	C30,K30	C30,K30	C20,K20
中国への受入	K20,J20	K25,J30	K30,J30	K10,J10	K20,J20
韓国への受入		J45,C40	J10,C10	J30,C30	

注)H23は実績、H24以降は計画。



〈連携講座・春季ショートステイの集合写真〉

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ CAMPUS ASIA CAFEの開室

パイロット学生に限らず、日中韓に関心を寄せる本学の学生や留学生の交流スペースとして同CAFEを開室しました。同CAFEでは中韓基礎文献を配架したほか、週に4日語学カフェ(語学講座)を開き、学びや交流の場として活用しています。

○ 任期制教員・専門職員の配置

中韓それぞれの言語に長けた任期制教員2名に加え、CAMPUS ASIA OFFICE(事務室)を新設し、本プログラムに専門で従事する職員3名を配置することで、学生のサポート体制を充実させました。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 広報パンフレットおよび『日・韓・中連携講座報告集』の作成

本事業概要をわかりやすくまとめた広報パンフレットや、学生のレポートを中心とした日中韓連携講座ショートステイ報告集などを作成し、学内外に対する本プログラムの説明・普及に役立てている。

○ キャンパスアジア・プログラム専用HPの開設

本プログラム専用のHPを開設し、概要説明のほか、説明会や語学カフェ、相談窓口設置等のニュース配信、ブログを通じた教職員からの情報発信・公開を行っている。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 立命館大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

東アジア次世代人文リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス。

【プログラムの目的・養成する人材像】

日中韓の言語に長け、その文化・文学・歴史等に深い理解力を有し、そこに横たわる諸問題を人文的知見から洞察・分析して具体的な解決を図り、日中韓を舞台とする企業、公共機関等で活躍できる国際的リーダーの育成を目指します。

【構想の概要】

平成15年以降築いてきた広東外語外貿大学(中国・広州、以下 広東外大)、東西大学校(韓国・釜山、以下 東西大)とのネットワークを基に、各国でパイロット学生を選抜し、移動型キャンパスを核とした4年間のカリキュラムを共同で運営します。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 三大学教職員合同会議

H24年6月に本学で、9月に東西大、2月に広東外大で3大学合同の会議をおこないました。プログラムの中心となる「移動キャンパス」の運営や授業方針について討議しました。

○ 遠隔システムを使った実務者会議

三大学教職員合同会議で討議すべき議題を整理し、議事進行をスムーズにするため、事前に遠隔システムを使った実務者会議を設置。5月、7月、10月に実施しました。

○ 3大学共通のWeb履修管理システムの構築と運用

「移動キャンパス」中に各大学でおこなわれる授業のシラバス、履修登録、成績確認、諸連絡の発信などをおこなうシステムとして、日本語・朝鮮語・中国語に対応した、3大学が共同で使えるポータルサイトを構築しました。学生にはパソコンが貸与されており、どの国にいても自分の登録授業や成績について確認できるようになっています。

(東西大での合同会議の様子)



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈中国での演習授業。韓国の学生のプレゼンを聞く日本・中国・韓国学生〉



○ オリエンテーションショートステイ

「移動キャンパス」の事前体験として、8月に3カ国の学生と一緒に1週間ずつ中国・韓国・日本で現地実習をおこないました。

○ プログラム参加のための候補生養成課程

プログラム参加に必要なスキル修得のための講義群を実施し、学生の自主学習を支援。

○ 移動キャンパス

2月からH25年度「移動キャンパス」が広東外大で始まりました。その最大の特色は、3カ国の学生と一緒に3つの大学をめぐりながら、現地で、現地の言葉で、現地のことを学ぶこと、そしてともに学び、生活し、協力し合って深い友情を結ぶことです。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

オリエンテーションショートステイとして、学生17人を中国と韓国の両国に派遣。12月にパイロット学生を中国・韓国に4人ずつ派遣し、2月にその8人をH25年度「移動キャンパス」1学期のため中国に派遣しました。TA養成プログラムとして、4名の学生・学部生を韓国に派遣。日・韓・中連携講座の集中講義として学生15人を韓国に派遣しました。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入		C40,K34	C35,K30	C35,K30	C30,K25
中国(C)での受入	K20,J16	K25,J29	K30,J30	K10,J10	K25,J25
韓国(K)での受入		J41,C33	J10,C15	J30,C35	J5,C5

注)H23・H24は実績、H25以降は計画。

○ 外国人留学生の受入れ

オリエンテーションショートステイのため韓国15人、中国20人の学生を受け入れました。日韓中連携講座の夏季集中講義で、韓国・中国から計39人の学生を受け入れました。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ キャンパスアジア用の語学クラス

キャンパスアジアへの参加希望学生に対し、各言語の習得度に合わせた専用の語学クラスを設けました。4月から初修者用クラス、9月に短期補習講座、後期セメスターのキャンパスアジア語学科目、12月の現地実習、1月の中国語発音講座などです。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ ラーニングアグリメント「プログラムの手引き」作成

キャンパスアジア・プログラムの概要、行程表、科目概要などを一目瞭然にした「プログラムの手引き」を作成しました。

○ ホームページとブログ

キャンパスアジア・プログラムのホームページを開設し、関連イベントやプログラムの様子を発信。「移動キャンパス」1学期には、学生が毎週記事を投稿し、現地での学習や体験の様子を綴りました。(http://www.ritsumei.ac.jp/campusasia/)

○ キャンパスアジア・ブックレットシリーズの刊行

キックオフカンファレンスや特別講座の成果を、ブックレットにしてシリーズ化しました。今後も継続して刊行する予定です。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 立命館大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

東アジア次世代人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス。

【プログラムの目的・養成する人材像】

日中韓の言語に長け、その文化・文学・歴史等に深い理解力を有し、そこに横たわる諸問題を人文学的知見から洞察・分析して具体的な解決を図り、日中韓を舞台とする企業、公共機関等で活躍できる国際的リーダーの育成を目指します。

【構想の概要】

平成15年以降築いてきた広東外語外貿大学(中国・広州、以下 広東外語外貿大)、東西大学校(韓国・釜山、以下 東西大)とのネットワークを基に、各国でパイロット学生を選抜し、移動型キャンパスを核とした4年間のカリキュラムを共同運営します。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 三大学教職員合同会議

H25年7月に本学、9月に東西大、H26年2月に広東外語外貿大で合同会議を行い、プログラムの中心となる「移動キャンパス」の運営やインターンシップについて討議しました。

○ 遠隔システムを使った実務者会議

三大学教職員合同会議で討議すべき議題を整理し、議事進行をスムーズにするため、事前に遠隔システムを使った実務者会議を設置。4月、5月、7月、9月、10月に実施しました。

○ 到達度アンケートの実施と3大学共有

WEB履修管理システムを利用して、H25年2月とH26年2月に到達度アンケートを実施しました。到達度アンケートでは、学生たちが感じたプログラムの問題点を聞き取るため、面談の機会も設けました。この面談を通じて寄せられた、プログラムに対するさまざまな意見や感想、要望等は3大学の教職員間で共有し、プログラムの運営に反映させています。

〈広東外大での合同会議の様子〉



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈移動キャンパス3学期の歴史・文化探訪〉



○ 移動キャンパス

H25年・H26年の2年間に亘り、広東外語外貿大(2月～4月)、本学(5月～7月)、東西大(9月～11月)を2巡する「移動キャンパス」を実施。各大学で語学授業や専門授業(演習、文化体験、通年歴史など)を開講しました。また、中国・自力村や日本・東日本大震災被災地、韓国・青山島(左図)等を訪問し、各国で特色のある研修を行いました。

○ キャリア形成プログラム

日本の企業慣行や企業戦略、大学院の状況を知り、企業見学や学会参加等の経験を経ることで、自発的に自身のキャリア形成を考えるヒントを提供するプログラムです。H26年5月にビジネスマナー研修、同6月に企業講演を行い、今後は企業見学やインターンシップ型の企業体験等を実施する予定です。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

前年度からの継続した取組として、「移動キャンパス」で東西大・広東外語外貿大へ各10名ずつ、「日・韓・中連携講座 春季集中講義」で広東外語外貿大へ11名(H26年2月)、それぞれ派遣したほか、新たに文学部1・2回生を対象に「東アジア現地体験プログラム(キャンパスアジア特別ショートステイ)」を実施しH25年9月には韓国(ソウル・釜山)へ12名、H26年3月には中国(広州・深セン・香港)へ23名を派遣しました。

○ 外国人留学生の受入れ

昨年度に続き、「日・韓・中連携講座 夏季集中講義」で広東外語外貿大から16名、東西大から15名を受け入れたのに加え、H25年5月には「移動キャンパス」2学期で両大学からパイロット学生各10名を受け入れました。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入		C40,K34	C26,K25	C35,K30	C30,K25
中国(C)での受入	K20,J16	K25,J29	K22,J44	K10,J10	K25,J25
韓国(K)での受入	J41,C33	J22,C10	J30,C35	J5,C5	

注)H23～H25は実績、H26以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 「3カ国学生共同宿舎」と語学カフェ、ランゲージエクステンジの実施

「学生共同宿舎」として2棟の建物を借り上げました。日中韓3カ国の学生が寝室、キッチン、リビングルーム、勉強部屋を共同で使用し、学習のみならず、生活面においても助け合いながら、相互理解を深めていきました。また、その宿舎は文化都市・京都の中心部に位置しており、中韓の学生たちが現地に密着して社会や文化を理解する機会にもなりました。このほか、キャンパスアジア・カフェで語学カフェとランゲージ・エクステンジを日常的に実施することで、語学力の向上や本学で学ぶ留学生との交流を促しました。

〈共同生活の様子〉



■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 3大学共通授業の開発とメディア報道

本プログラムの目的「次世代人文学リーダーの育成」にもっとも合致する授業として、各国の歴史を各国の言語で学ぶ通年の歴史授業を開発し、その様子はテレビ、新聞等を通じて広く報道、普及されました。

大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 立命館大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプAー I CAMPUS Asia Pilot Program))

東アジア次世代人文リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス

【プログラムの目的・養成する人材像】

日中韓の言語に長け、その文化・文学・歴史等に深い理解力を有し、そこに横たわる諸問題を人文的知見から洞察・分析して具体的な解決を図り、日中韓を舞台とする企業、公共機関等で活躍できる国際的リーダーの育成を目指します。

【構想の概要】

H15年以降築いてきた広東外語外貿大学(中国・広州、以下 広東外語外貿大)・東西大学校(韓国・釜山、以下 東西大)とのネットワークを基に、各国でパイロット学生を選抜し、移動型キャンパスを核とした4年間のカリキュラムを共同運営します。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ パイロット・プログラムの振り返りと常設化プログラムの枠組形成

H28年度からの常設化に向けて、実務者会議等を通じ、三大学で現行のパイロット・プログラムの振り返り、その結果を基に常設化プログラムの枠組みやカリキュラムを検討しました。

○ 第1回外部評価委員会および三大学教職員合同会議の開催

H26年11月とH27年4月に三大学教職員合同会議を開催するとともに、6月には本学で第1回外部評価委員会を開催し、H25年度の取組みを中心に委員から評価を受けました。

○ 到達度アンケート実施と専門家による効果検証

H26年8月とH27年4月に3・4回目のアンケートを実施するとともに、1・2回目の結果を学生たちにフィードバックしました。また、多言語学習や国際教育研究等の観点から、それぞれの分野の専門家が本事業の効果測定・検証を行っており、今後は学際的な共同研究も視野に入れて進めていく予定です。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈学生交流会の様子〉



○ 移動キャンパス2年目と海外インターンシップの実施

移動キャンパスの2年目を各国で滞りなく実施するとともに、H26年12月には本学学生のインターンシップを中国・韓国で行い、H27年にも3月から5月に中国で、6月から8月に日本と韓国で、それぞれ実施して学生を相互に派遣しました。

○ 名古屋大学・岡山大学との合同学生交流会実施

H27年2月に名古屋大学・東山キャンパスにて、名古屋大学・岡山大学と合同で学生交流会を実施し、各大学に留学中の学生も含めた、70名以上の学生が参加しました。

○ 常設化合意書の締結、高大連携プログラム・高校訪問を通じた広報

H26年7月に三大学の学長・総長が集まり、H28年度から本プログラムを常設することを定めた合意書に調印しました。これを受けて、11月には高大連携プログラムの一環で現役高校生を本学に招き、H27年5月からは全国の高校50校あまりを訪問して、プログラムにおける学びや、中国語・韓国語の既修者を対象にした新AO入試制度について広報しました。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

「移動キャンパス2年目・3学期」で10名、「日・韓・中連携講座 春季集中講義」で22名の学生を東西大へ派遣しました。また、「海外インターンシップ」で中国・韓国へ各5名ずつ、計10名を、修士複数学位制度では広東外語外貿大へ1名を派遣しました。

○ 外国人留学生の受入れ

「移動キャンパス2年目・2学期」で計20名、「日・韓・中連携講座 夏季集中講義」で計30名の学生を受け入れました。加えて、修士複数学位制度で広東外語外貿大から2名、東西大から1名の院生を受け入れました。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入		C40,K34	C26,K25	C24,K29	C30,K25
中国(C)での受入	K20,J16	K25,J29	K22,J44	K7,J6	K25,J25
韓国(K)での受入		J41,C33	J22,C10	J37,C26	J5,C5

注) H23~H26は実績、H27は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 修士複数学位制度(DMDP)協定書の締結

H26年2月に本学と東西大の間でDMDPの協定書が締結され、三大学の相互派遣を可能とするDMDP制度が構築されました。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

〈国際フォーラム 学生発表の様子〉



○ 「日中韓キャンパスアジア国際フォーラム」の開催

H26年7月に大阪・国際交流センターで国際フォーラムを開催し、延べ1,000名近い来場者を集めました。フォーラムでは基調講演に加えて、学生たちの成果発表のほか、三大学の学長・総長らによる「多文化協働型のアジア人材育成への課題と挑戦」をテーマにしたパネルディスカッションを開催し、本プログラムの成果を広く発信しました。

○ 「東アジア・グローバルリーダー育成プログラム」の新設

本事業の成果を踏まえ、SGUの取組の一環として本学と淡江大学(台湾)、慶熙大学校(韓国)が連携し、移動キャンパス型の新プログラムをH28年4月からの予定で実施することとなった。

大学の世界展開力強化事業 H27年度取組概要 立命館大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

東アジア次世代人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス

【プログラムの目的・養成する人材像】

日中韓の言語に長け、その文化・文学・歴史等に深い理解力を有し、そこに横たわる諸問題を人文学的知見から洞察・分析して具体的な解決を図り、日中韓を舞台とする企業、公共機関等で活躍できる国際的リーダーの育成を目指す。

【構想の概要】

H15年以降築いてきた広東外語外貿大学(中国・広州、以下 広東外大)・東西大学校(韓国・釜山、以下 東西大)とのネットワークを基に、各国でパイロット学生を選抜し、移動型キャンパスを核とした4年間のカリキュラムを共同で運営する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

(三大学合同モニタリングの様子)

○ 三大学教職員合同会議(@立命館、東西大)

H27年4月に本学で、H28年1月に東西大で3大学合同教職員会議を行った。海外インターンシップやリーダーズフォーラム、三大学合同修了証に関する議論や報告をし、28年4月から開始される常設化プログラムについて具体的な討議を行った。



○ 第2回外部評価委員による効果検証

H27年7月に学外の教育・産業界の有識者3名を招聘し、外部評価委員会を実施した。H26年度の実績報告を行い、関係教職員と意見交換を行った。各委員はプログラムの成果や継続性のあるプログラム運営の仕組みを高く評価し、本事業の一層の発展と継続を強く希望した。

○ 三カ国合同モニタリング(@東西大)

H28年1月に、三カ国合同モニタリングが東西大で開催された。当日は、本プログラムの評価と課題について教職員への質問、テレビ会議システムを利用してパイロット学生へのインタビュー調査が行われた。モニタリング団からは、パイロット学生は高い言語運用能力と教養力を兼ね備えた優れた学生であると評価され、本プログラムがより波及効果を生む形で継続されることに期待が寄せられた。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

(三大学合同修了式 集合写真)

○ 海外インターンシップの実施

H27年3月～5月にかけて、中国でインターンシップを実施した。また、6月～8月には、日本でもインターンシップを実施し、広東外大から4名と東西大から3名の学生が参加した。

○ 三大学合同修了式

H28年1月、広東外大にて3大学合同の修了式を行った。三大学合同修了証や各種表彰状の授与、常設化プログラムの協定書調印式、教員・学生それぞれの観点から、プログラムの成果発表を行った。ここで、30名のパイロット学生が合同修了証書を手にした。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

「日韓中連携講座 春季集中講義」で19名、「交換留学プログラム」で4名の学生を広東外大に派遣した。また、「TA養成プログラム」で6名の学生を東西大に派遣した。

○ 外国人留学生の受入

「日韓中連携講座 夏期集中講義」で63名、「海外インターンシップ」で7名、計70名の学生を受入れた。「交換留学プログラム」で広東外大から10名、「修士複数学位制度」で広東外大から2名、東西大から1名の院生を受入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入		C40,K34	C26,K25	C24,K29	C42,K41
中国(C)での受入	K20,J16	K25,J29	K22,J44	K7,J6	K22,J23
韓国(K)での受入	J41,C33	J22,C10	J37,C26	C15,J6	

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 常設化プログラムの協定書締結

H28年1月に本学と広東外大、東西大の3大学間で、H28年度から始まる常設化プログラムの協定書が調印された。

○ キャンパスアジアAO入試を新設

H28年度からの常設化プログラムに向け、AO選抜入試「国際方式(中国語・朝鮮語/キャンパスアジア)」を新設した。それに伴う入試発表会(6月大阪、6・7月東京)では、パイロット学生たちがプログラムの魅力や学びの様子を高校生たちへ発信した。その後、常設化プログラムの参加学生を選抜し、H28年4月から新入生20名がプログラム生として参加している。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

○ リーダーズフォーラム(@立命館)の開催

H27年10月に開催したフォーラムでは、第一部では学生たちが「キャンパスアジアで何を学んだか」をテーマに学習成果を発表し、第二部では本学教員が言語文化教育学・国際教育学・生涯発達心理学の様々な観点からキャンパスアジアの学びを分析検証し、報告を行った。

○ 3大学合同リーダーズフォーラム(@広東外大)の開催

三大学合同修了式と合わせて、広東外大でH28年1月に実施した。各大学から代表学生2名ずつが卒業論文を発表し、各大学の事業責任者や教員が総評を行った。